

園のくらしを育む 13

物との出会いからの育ち

秋田喜代美

1 五月ベランダでの「コマ

期待と希望に満ちた新入園のころは、初めて園に通う子どもと保護者にとっては試練の時であり不安の時期でもある。そしてそれも落ち着いたと思える連休明けになつてから、緊張がほぐれ、登園渋りが始まつたりする子どももいる。この四、五月の映像の中で、私がお気に入りの、ほほ笑ましく繰り返し見入る幾つかの映像記録がある。

他の子どもたちがすでに保育室に入つて一緒に活動を始めても、園のカバンを掛け通園の帽子を脱ぐことを拒み、着替えることなくベランダで母親の迎えを待つこともある三歳児のはるな(仮名)。友達がたまたま手に赤い折り紙で何か折つたものを持ってベランダの洗面の所に手を洗いに出してきた。その折り紙がはるなは気になり、寄つていく。先生も出てくると、先生の所に寄つていき、「お母さんに会いたい」と言つて

抱きついている。友達が蛇口を開けると急にたくさんの水が出始める。すると他の子どもが蛇口の栓を少し細め、先生が「水を出し過ぎたらもつたいないよ」と声をかける。他児たちは手を洗い終わると保育室に入っていく、折り紙を置いたのを忘れて部屋に戻っていく。

それまで遠巻きに見ていたはるなは、早速その折り紙を手取る。とともに、さつき友達がやっていたように蛇口を開けて水を出してみる。そしてその赤い折り紙を水に浮かべ眺めている。排水口の所で水が渦巻くのを見ている彼女は、ちよつと楽しそうである。とすぐに、もつと蛇口を開けて、先生が「そんなに水を出し過ぎたらダメよ」とさつき言っていた以上に回してみても、洗面の水が跳ねるスリルを楽しんで眺めている。と、彼女はまた蛇口を一回閉じる。これで終わりかなと思いきや、今度は一気に蛇口を思いっきり開き、まるで仮説を検証するかのように、じゃあーつと流れ渦巻く水と折り紙を夢中になって見ている。

2 物との田舎ごころより、没頭から安心が育つ

保育の質は、「安心」と「没頭」の2視点で語ることができる。私は日ごろから考えている(小田他 二〇一〇年)。一般的に言えば、安心すること子どもは夢中になって活動できると考えられているだろう。だから安心感や居場所づくりを考える。しかし、物や事柄の不思議さや魅力に出合うことで、子どもは親からの分離や新たな人間

関係への不安を忘れて一つのことに夢中になる。それによって、家庭から離れた園で育ち、そこに学びが生まれていくのではないかと、私はこのエピソードから感じる。

おそらく先生がダメよと言ったにもかかわらず水を思いっきり出しっぱなしに見つめていることも、皆が保育室に入っている時間にもかかわらず入室を拒否してベランダにいても、教育や指導という視点で見たら多少問題のあることとして見られがちなことでもあるだろう。それでも私は、こうしたほんのわずかな出来事の中に見られる、遊び心に満ちた子どもの心の揺れ動きが保障されていくことが、園の中で子どもが育つ時に必要ではないかと感じる。そして子どもの遊び心や面白さとはこんな姿の中に見出せるのではないかと思うのである。おそらく、しっかり物心がついたら、こんな気ままな動きはしなくなるだろう。このはるなの隙間時間の遊び心を映した映像を研修等で保育者の皆さんと一緒に見ると、誰もがほほ笑まれる。それは子どもの中にある、物に触れたいと思うと抑え切れなくなる気ままな欲望や、その子なりに予想を立てながら知的に動いている姿にある、子どもらしい心性を感じ取っているからだと感じる。

保育において、学びが教育と常にセットになって語られる中では、暮らしの中のこうした小さな一コマの中で揺れ動く子どもの動きの意味を語ることが失われていくのではないかと私は危惧している。遊び心の醸成は、教育という目的的行為の中で達成されるのではなく、直感的に面白いと思うことにとりつかれたように、脇目を振らず

にのめり込むことの中で起こる。そしてそれこそが実は集中力や創造性、課題解決能力への芽になっていくのではないだろうか。

アメリカを代表する女性教育哲学者マキシム・グリーンの「教育をシステムというレンズで見ること、技術的な観点から見るとは物事を小さく見る視点である。これに対し、教育を変えていくには、小さな出来事の中に大きなことを見出すこと、特定の状況での一人の子どもの中にも、はかりしれない独自の意味を見出すことができることが求められる」という言葉を思い出し、子どもたちの遊び心の中に独自の意味を見出してみたい。学年初めの子どもの姿の中に限りなく大きな可能性が見出しているのではないだろうか。

(東京大学大学院)

参考文献

小田豊他「子どもの経験から振り返る保育プロセス…明日のよりよい保育のために」
幼児教育映像制作委員会 二〇一〇年

Greene, M. *Releasing the imagination: Essays on education, arts and social change.*

San Francisco: Jossey-Bass Pub. 1995